

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大阪府立富田林高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☒ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
〒584-0035
大阪府富田林市谷川町4番30号
E-mail tonkou@tondabayashi.osaka-c.ed.jp
Website http://www.osaka-c.ed.jp/tondabayashi/
幼児児童生徒数 男子 460名 女子 455名 合計 915名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「探究」と「貢献」を学校理念として、ESDをグローバルリーダーの育成のための目標指標と捉え、ESDの実践を通して地域に対する愛情を基礎に地球的視野を持って国際社会に貢献しようとする高い志を持った人材の育成を目指した。

具体的には、SSHとしての活動とユネスコスクールネットワークを通じた活動や、海外研修プログラムを通じた活動及び「総合的な学習の時間」の活動を柱に①環境②国際理解③自発的・能動的・協働的学習の実践に取り組んだ。

① 環境に係わる活動

環境教育のフィールドとしては石川という恵まれた立地を活かし、石川水域のアユの遡上に関する研究やホテルを地域に呼び戻すための研究を大学や行政とも協力して行い、知事賞や学会賞を受賞した。また、地域で行われる石川大清掃にも生徒会の呼びかけで多くの生徒が参加した。

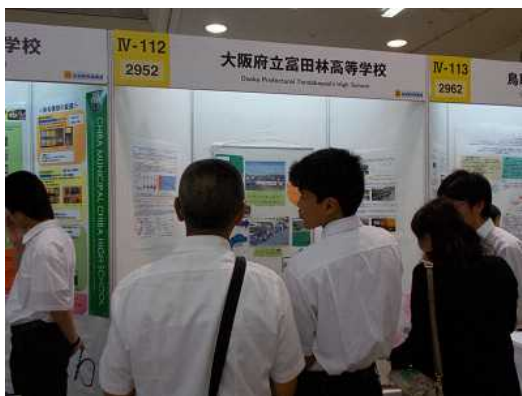
② 国際理解に係わる教育

グローバルな視野を持ち世界とつながり活躍できる人間の育成を目標とし、従来のタイや台湾からの短期留学生の受け入れや交流、オーストラリアのリートン校との姉妹校提携に加え、台湾北大高級中学と姉妹校提携を結び、2学年の終わりには学年全員で台湾スタディツアーを行った。また、米国 San Francisco（シリコンバレー）において、Entrepreneurship に特化した研修を行い、グローバルに開かれた視野の必要性を認識するとともに、国際的な知見から現代社会の問題を認識し、その問題解決を図るノウハウを学んだ。ユネスコスクールとしては12月に行われた「日中 ESD-GAP ワークショップ」に運営スタッフとして参加し、他校生や中国の高校生と交流を行った。

③ 自発的・能動的・協働的学習

課題発見解決能力育成のためのコアとなる科目として「富高 E タイム(総合的な学習の時間)」を位置づけ、自ら課題を発見・解決する力を養い、他者等と協働できる力を養う力の育成に努めた。また、「地域フォーラム」を開催し、大学、近隣地域の小・中学校、地域の方々との交流を行うことで地域貢献への意識の育成に努めた。

① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特に指定せず。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は本年度より大阪府初の併設型中高一貫校となる。教育目標は「グローバルリーダーの育成」であり、グローバルな視野を持ち世界とつながり活躍できる人間の育成を目標とし、中高 6 年間でスパイラルに繰り返す探究活動、アクティブ・ラーニング型の教科・科目の授業、地域をフィールドに地域と連携した貢献活動、世界的な視野で発信交流に目標をおいた英語教育などの学習プログラムを確立する。その中心となるのが、①環境②国際理解③自発的・能動的・協働的学習であり、中学では「南河内探究」高校では「富高Ｅタイム」の時間を通して、能動的な課題探求学習に取り組み、教科の授業を通して対話的で深い学びの習得を目指している。また、部活動や課外活動の中で国際的な視野を持った人材を育成できるよう、国際交流や海外体験のプログラムを準備している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

高校の探究活動では、目的達成のために必要な指導（具体的にはグループにおける課題研究を進めるための人間関係トレーニング、様々な分野に対する興味・関心を育てるための講演やワークショップ、課題研究の手法及び情報収集の方法の指導、グループ単位での課題研究指導等）を、約１年半（１年次４月～２年次１０月）かけて実施する。担当は総合的な学習の時間担当者の計１５名の体制で生徒を２０～２６名のゼミに分け、ゼミ担当者による指導体制を敷いた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての学校活動評価基準は、生徒による「授業アンケート」の評価、生徒・保護者・教職員による「学校教育自己診断」の評価、参加生徒の感想、学校運営協議会や学識者等による外部評価、によって評価する。
評価から明らかになった成果は、国際交流への取り組みの満足度の高さ（生徒 86.4% 保護者 92.0%）と学校への満足度の高さ（生徒 90.6% 保護者 95.7%）であり、課題としては教職員の過重労働が挙げられている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校は、環境教育のフィールドとしては石川という恵まれた立地を活かし、大学や行政とも協力して知事賞や学会賞を受賞している。このような成果を姉妹校である台湾の北大高級中学の生徒と共有し、互いの国の現状について話し合うことでともに国際的なグローバルリーダーとしての力の育成に努めている。また、「地域フォーラム」を開催し、大学、近隣地域の小・中学校、地域の方々との交流を行うことで地域貢献への意識を育てよう努めている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

「総合的な学習の時間」の研究アドバイザーとして、京都大学学術推進部社会交流室の常規先生に指導をいただいたり、近畿大学原子炉研究所、関西光科学研究所を訪問させていただいたりしている。また、大阪ユネスコスクールネットワークを通じて、大阪のみならず、奈良や京都の各高校及び、「日中 ESD-GAP ワークショップ」を通して中国の高校生と交流している。富田林の国際交流協会とは時に応じて連絡を取り合い、協力関係を築いている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

大阪ユネスコスクールネットワークを通じて、大阪のみならず、奈良や京都の各高校及び、「日中 ESD-GAP ワークショップ」を通して中国の高校生と交流している。大阪ユネスコスクールとしての活動は以下の通り。

第一回準備セミナー 7/28(金) I-site なんば
第二回準備セミナー 9/16(土) 住吉高校
第三回準備セミナー 10/22(日) 住吉高校
第四回準備セミナー 11/18(土) 住吉高校
第五回準備セミナー 12/3(日) 住吉高校
第六回準備セミナー 12/17(日) I-site なんば
第七回準備セミナー 12/22(金) 長野高校
ワークショップ当日 12/23(土) I-site なんば

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

全体的には、国際交流への取り組みの満足度の高さ（生徒86.4%保護者92.0%）と学校への満足度の高さ（生徒90.6%保護者95.7%）である。

個別生徒としては、海外スタディツアーを経験した生徒の満足度の高さ、また、帰国後の国際交流への取り組みに対する関心の高さや、大阪ユネスコスクールネットワークに参加した生徒の具体的な変容があげられる。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

本校は大阪府初の併設型中高一貫校として、「グローバルリーダーの育成」を教育目標としている。本年度は昨年度に引き続き、グローバルな視野を持ち世界とつながり活躍できる人間の育成を目標とし、ESDの実践を通して地域に対する愛情を基礎に地球的視野を持って国際社会に貢献しようとする高い志を持った人材の育成を目指す。

具体的には、本年に引き続き、①SSHとして探究を中心に据えた活動 ②ユネスコスクールネットワークを通して交流を中心とした活動 ③海外研修プログラムを通して国際的視野を深める活動 ④「総合的な学習の時間」の活動を通して自発的・能動的・協働的学習の実践に取り組む。